

補助動詞の相互承接について

山本裕子（名古屋女子大学非常勤講師）

1. はじめに

- ・補助動詞が2つ続けて用いられる場合（ V で V_1 で V_2 ）承接のしかたに何らかの制約があるかどうか。
- ・制約があるとしたら、どんな性質のものか。統語的、意味的にどのように考えられるか。

2. 補助動詞の意味機能

寺村（1984）ではテ形に後接する補助動詞は二次的アスペクトの形式とされている。しかし、全ての補助動詞を同列に扱うのではなく、意味により3つのカテゴリーに分類している。（寺村 1984：123）

(1) a (～シテ)イル、アル、シマウ、イク、クル

b (～シテ)オク、ミル、ミセル

c (～シテ)ヤル/アゲル、モラウ/イタダク、クレル・クダサル

aは「アスペクト性」を持つもの、bは「もくろみ性」を持つもの、cは「やりもらい」の補助動詞である。ただし、aであっても「～てくる」「～ていく」はアスペクト的な用法だけでなく、空間的な用法も持つ。

(2) だんだん人が増えてくる。

(3) 石が落ちてくる。

3. 数量的分析

名大コーパスに「茶漉」をかけて、二つ連続して用いられる補助動詞の用例をカウントした。結果は表1の通りである。

3-1 存在しない組み合わせ

あって V_2 *「食べてあっている」

3-2 頻度の高い組み合わせ

V てきてくれる/くださる	275
V てきている	169
V ていてくれる/くださる	140

Vてやってくれる / くださる	130
Vていってしまう	116

3-3 位置に注目した場合に頻度の高い組み合わせ

	V ₂ に注目した場合		V ₁ に注目した場合	
1	VてV ₁ てくれる / くださる	635	VてきてV ₂	549
2	VてV ₁ ている	486	VてしまってV ₂	186
3	VてV ₁ てしまう	136	VてやってV ₂ ・いってV ₂	180
4	VてV ₁ てやる	74	VていてV ₂	155

3-4 動詞別に見た 位置と頻度

(4) 前に生起する頻度の高いもの

「いく」・「くる」

VていってV ₂	180	VてきてV ₂	549
VてV ₁ ていく	6	VてV ₁ てくる	8

「おく」・「やる(あげる)」

VておいてV ₂	60	VてやってV ₂	180
VてV ₁ ておく	12	VてV ₁ てやる	74

・「Vてやってくれる / 下さい」が 125 / 180

(5) 後ろに生起する頻度の高いもの

「いる」・「くれる(くださる)」・

VていてV ₂	155	VてくれてV ₂ (いる)	47
VてV ₁ ている	486	VてV ₁ てくれる	610

・「Vていてくれる / くださる」が 140 / 155

(6) 中間的なもの

「もらう」「しまう」

VてもらってV ₂	26	VてしまってV ₂	186
VてV ₁ てもらう	26	VてV ₁ てしまう	136

「みる」「みせる」

VてみてV ₂	32	VてみせてV ₂	3
VてV ₁ てみる	29	VてV ₁ てみせる	0

表 1

1 \ 2	ル	アル	シマウ	ク	クル	ク	ミル	ミセル	ヤル	アケル	モウ	イタダク	クル	クダ	計
ル	0	0	173	4	169	0	4	3	38	8	22	4	40	7	486
アル	0	0	5	1	4	3	0	0	0	1	0	0	0	0	14
シマウ	0	0	0	116	18	0	0	0	2	0	0	0	0	0	136
ク	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	6
クル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4
ク	0	0	3	0	4	0	4	0	1	0	0	0	0	0	12
ミル	1	0	0	24	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	29
ミセル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヤル	7	0	1	11	44	11	0	0	0	0	0	0	0	0	74
アケル	0	0	0	1	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
モウ	7	0	0	2	13	0	0	0	2	0	0	0	0	0	26
イタダク	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	6
クル	90	0	3	14	224	23	6	0	61	0	0	0	0	0	421
クダ	50	0	1	7	51	20	16	0	69	0	0	0	0	0	214
	155	0	186	180	549	60	32	3	180	14	26	4	40	7	

4. 考察

4-1 補助動詞間の階層

3-4の結果から次のような階層性があると考えられる。

(7) $\langle \text{いく} \cdot \text{くる} \rangle < \langle \text{みる} \cdot \text{しまう} \cdot \text{おく} \rangle < \langle \text{いる} \cdot (\text{ある}) \rangle < \langle \text{やりもらい} \rangle$

前

後

食べていってみる

*食べてしまっていく

食べてみている

*食べていってみる

食べていてくれる

食べてくれている

4-2 意味について

- ・「～ていく」「～てくる」(空間と時間の両方の意味を持つもの)

VてきてV₂ 空間 512 / 549 > 時間 37 / 549

- ・南(1993)の文の階層構造²において補助動詞はBの階層に属する。BはAに限定を加える段階で、「認定」「背景」「とりたて」等の構造を持つ。補助動詞は特に「背景構造」に関わるものと考えられる。

各形式の意味を考えると、以下のような志向性を持つと考えられる。

- ・時間的な把握 いる・くる(アスペクト)・いく(アスペクト) =
- ・事態の把握 みる・みせる・しまう・おく・いく・くる =
- ・人間の関わり方の把握(働きかけ³) やりもらい =

4-1の結果では、コト的なもの、時間的なもの、対人的なもの順に位置している。これは文における生起順とも一致する。

5. おわりに

- ・補助動詞の中に階層構造があること、前はコト的、後ろの方がモダリティ的になるように、文の組み立てに合う形で承接がなされていることがわかった。
- ・意味についての詳しい検討(各形式の多義の意味と承接のしかたとの関係)は今後の課題である。

注)1 アスペクト的なもの、空間的なものがそれぞれさらに拡張し、多様な意味を表す。本稿ではひとまず「アスペクト的なもの」「空間的なもの」と大きく二つに括る。

2 南(1993)は文をA描叙、B判断、C提出、D表出の4段階の階層構造としている。このうちA Bがいわゆる「命題」に相当し、Cは対事的モダリティ、Dは対人的モダリティに相当する。詳しくは南(1993)を参照。

3 「～ください」が圧倒的に多いことから、対人的な働きかけをするものと考えてよい。

引用文献

- 寺村秀夫 1984 『日本語のシンタクスと意味』くろしお出版
南不二男 1993 『現代日本語文法の輪郭』大修館書店